



一般財団法人日本建築センター
The Building Center of Japan

システム審査部発行

〒101-8986 東京都千代田区神田錦町 1-9

TEL 03-5283-0476

FAX 03-5281-2827

ホームページ <https://www.bcj.or.jp>

Eメール sinsa@bcj.or.jp

ISOだよりの所有権はシステム審査部に帰属します

「ISO情報交換会2018」 を開催致しました

一般財団法人 日本建築センター システム審査部 (BCJ-SAR) では、2018年3月6日(東京)、9日(大阪)に認証組織に対する情報提供の一環として「ISO情報交換会2018」を次の内容で開催し、マネジメントシステムの運用に有用な情報交換となりました。

「ISO情報交換会2018」の内容

- 「4.組織の状況」と「6.1 リスク及び機会への取組み」の展開について
- 「内部監査チェックリスト」の情報交換
- 内部監査の効果的な運用について

最初の吉田審査員による説明では、2015年版移行審査を数多く行った経験から、次の内容を中心に2015年版のポイントについて、説明させて頂きました。

- ① 「リスク及び機会」に関連する規格要求事項
- ② 規格が求めているマネジメントシステムへの展開
- ③ リスク及び機会の展開の事例
- ④ 規格意図に対応する展開パターン
- ⑤ 見直しのためのチェックポイント

「内部監査チェックリスト」の情報交換及び「内部監査の効果的な運用について」では、初めての試みとして、ご参加の認証組織が使用されている「内部監査チェックリスト」をご提出頂き、それをもとに認証組織の皆様同士で内部監査の効果的な運用について、情報交換を致しました。なお、ご提出頂いたチェックリストは多様で、そ

れぞれ工夫されており、次のような傾向がありました。

- * 規格要求事項順に質問内容を設定し、監査結果として「客観的証拠」欄、「判定」欄を設定しているケース。
- * 不適合判定以外に、「観察事項」、「推奨事項」などを設定しているケース。
- * トップマネジメントに対する質問(意見伺い)を丁寧かつ詳細に設定しているケース。
- * 質問に対する回答を設定しているケース。
- * 質問内容に対する監査の詳細ポイントを設定しているケース。
- * 監視・測定の対象から得られた結果をもとに、関連するプロセスの重要性と組織に影響を及ぼす変更を考慮した活動の改善項目を重点監査項目として設定しているケース。
- * 監査テーマを設定して監査を実施しているケース。
- * 監査チェック項目に対する例示を記載しているケース。
- * 規格要求項目毎のPDCAを示し、それに対する監査ポイントを設定しているケース。

内部監査の見直しのためのチェックポイントでは、次の内容を中心に説明させて頂きました。

【内部監査プログラム(内部監査計画)】

- ◎ 規格要求事項を満たす監査プログラムが確立されているか。
- ◎ 監査プログラムは、決められた期間内の一連の監査が計画されているか。

- ◎ 監査プログラムは、関連するプロセスの重要性、組織に影響を及ぼす変更、前回までの監査結果を考慮に入れているか。
- ◎ 監査プログラムは文書化されているか。
- ◎ 監査計画は、特定の目的に向けて計画されているか。
- ◎ 監査の方法（基準、手順）、責任、計画要求事項は定まっているか。
- ◎ 監査員、監査チームの選定は客観性、公平性が担保されているか。

【内部監査チェックリスト】

- ◎ 監査基準と比較できる客観的証拠を収集し、記録できる様式になっているか。
- ◎ 特定の目的に対して適切で、妥当で、有効なチェック項目（確認項目）になっているか。
- ◎ 監査予定時間に対して適切なチェック項目（確認項目）になっているか。

【内部監査報告書】

- ◎ 監査所見、監査結論が明確に文書化されているか。
- ◎ 監査プログラムの実施及び監査結果の証拠が文書化した情報となっているか。
- ◎ 内部監査報告書が、MSの有効性の継続的改善に繋がる情報提供になりうるか。

<主な質疑応答>

■「4.組織の状況」と「6.1 リスク及び機会への取組み」の展開について

Q: 事業計画の中で「リスク及び機会」の変化を含めたリスク管理を行っているが、問題はないか。

A: 「リスク及び機会への有効性」がどのようにマネジメントレビューへのインプット事項として反映し、アウトプットされているか、また、その結果、改善活動に結びついているかが重要であり、その管理が事業計画の中で行われていても良い。

■「内部監査チェックリスト」の情報交換

Q: 「監査テーマ」を設定している内部監査チェックシートがあるが、設定した理由は何か。

A: 東日本大震災の際、資材及び輸送ルートの確保等の問題が浮き彫りとなり、これらの問題について内部監査機能を使い改善していくことになったのが契機である。その後は、時宜を得た「監査テーマ」を設定し、システム改善に役立てている。2015年版の規格発行以降では、外部委託先の管理について「監査テーマ」に取り上げ不具合の撲滅に向けた活動に繋げるとともに、外部委託先等が困っている内容も吸い上げて改善に繋げている。

Q: 「監査テーマ」を中心に監査を行って良いか。

A: 一定期間内で規格要求事項を確認していれば良いので、「監査テーマ」を中心に監査するので良い。監査プログラム策定の一環となるものである。

Q: 監査チェックリストの分量は、どの程度が適切か。

A: 監査員の力量、組織の状況により違ってくる。監査方針、重点監査項目を定め監査を行うことが重要である。

内部監査の運用では、ご苦労されている認証組織も多くいらっしゃるようで、「ISO情報交換会」終了後、今回の情報交換の内容は、今後の内部監査に大いに参考になったとのご感想を多数頂きました。

今回の情報交換会にご参加頂けなかった認証組織の皆様には、当日の資料の一部を後日配付させていただきます。

認証組織の皆様方にとっては、これからのマネジメントシステムの運用において参考になるかと思しますので、是非ご一読下さい。



ISO 45001:2018が正式発行

ISO 45001:2018 (労働安全衛生マネジメントシステム規格) が、2018年3月12日に正式発行されました。JISの発行は現在のところ2018年7月頃になるようです。

ISO 45001:2018の発行を受けて、OHSAS 18001:2007は、ISO発行から3年後に廃止されることが決定しております。

ISO 45001は、ISO 9001やISO 14001と同様に、ISO マネジメントシステム規格の共通項目(一般的に附属書SLと言われている)に基づいた構成となっております。

組織の状況(外部内部の課題)、働く人及び利害関係者のニーズ及び期待を明確にしたうえで、これらを考慮してマネジメントシステムの適用範囲を決定していきます。更にマネジメントシステムを計画する際には、決定したリスクと機会を取り入れて運用していくというプロセスは、労働安全衛生マネジメントシステムにおいても変更ありません。

これから移行審査を受審されるご予定で、まだ審査日程が確定していない場合は、時期によりましては審査が混み合い、ご希望の日程で審査が実施出来ない場合もありますので、システム審査部窓口担当者に、早めの審査日程をご相談されますことをお勧め致します。

なお、移行には2018年8月開催予定の認証判定会議迄に移行審査を終えて移行認証の審議を行う必要がありますので、移行審査は2018年6月末迄に受審されることを推奨致します。

システム審査部では、2015年版への移行をスムーズに行うことを目的に、移行審査を1次審査、2次審査の2段階で行うメニューをご用意し、大変好評を頂いております。詳しくはシステム審査部窓口担当者まで、お気軽にお問合せください。

【お問合せ先】

一般財団法人 日本建築センター
システム審査部
TEL : 03-5283-0476
FAX : 03-5281-2827
E-mail : sinsa@bcj.or.jp

ISO 45001発行に伴う今後の対応

現在OHSAS 18001:2007を認証取得されている組織は、OHSAS 18001規格が廃止される以前にISO 45001:2018に移行して頂く必要があります。

システム審査部では、2018年の秋頃を目途に、ISO 45001:2018の規格解釈及びOHSASからの移行の手順などについての説明会を行う予定です。説明会の詳細については、決まり次第、改めてご案内をさせていただきます。

2015年版移行審査をこれから受けられる組織へのご案内

2015年版への移行期限は、2018年9月14日迄となっております。今後多くの組織が移行審査を受審される予定です。

● 2018年度認証判定会議の日程は下記のとおりです ●

2018年 (平成30年)	4月25日(水)
	5月23日(水)
	6月27日(水)
	7月25日(水)
	8月29日(水)
	9月26日(水)
	10月24日(水)
	11月28日(水)
2019年 (平成31年)	12月26日(水)
	1月23日(水)
	2月27日(水)
	3月27日(水)

「平成30年度 ISO 内部監査員養成セミナー」のご案内

ISOのシステム構築と運用に当たって最も大切なことは、核となる人材を組織内に育成することです。

認証機関との打ち合わせ、審査への対応、審査で指摘された不適合の是正処置及び回答等、組織内に対応できる人材を育てる必要があります。当財団では、ISO 9001（品質）・14001（環境）の社内的定着を図るための核となる人材を育成するためにセミナーをそれぞれ開催しております。

受講された方には修了証を交付します。

		ISO 9001（品質）コース	ISO 14001（環境）コース
開催日 (2日間)	東京	平成30年7月9日(月)～10日(火)	平成30年7月5日(木)～6日(金)
	大阪	平成30年8月27日(月)～28日(火)	
プログラム	1日目	規格解説の講習、考査	規格解説の講習、環境法令、考査
	2日目	内部監査手順・演習の講習、考査	内部監査手順・演習の講習、考査
※ 1日目だけ又は2日目だけの受講も可能です。			
受講料	2日間： [BCJ 認証組織] 41,100円（税込み）		
	1日目又は2日目のみ： [BCJ 認証組織] 20,800円（税込み）		
	※ 受講者全員にオリジナルテキスト付。なお、ISO規格書は別途ご購入ください。		
定員	20名		
主催	一般財団法人 日本建築センター 情報事業部		
お問合せ先	岡田・岡林あて TEL：03-5283-0477 / FAX：03-5281-2828 / E-mail：okada_r@bcj.or.jp		

9001・14001コースとも出張セミナーも別途承ります。お気軽にご相談ください。